

## HITEC2024 Charlotte

北米最大のホテルIT展示会が開催されました。今年は入場者数も出展ベンダー数を前年を上回る盛況ぶりでした。しかしアジアエリアからは相変わらず弱いようです。

### Topics1

**AIはベンダーを信用せずに自社リスクを良く把握。**  
AI全盛でどんなソリューションにもAIが組み込まれている状態になっています。しかしAIが作り出すリスクについて真剣に考えておかないと、大きなしっぺ返しを受けると識者は警鐘を鳴らします。

### Topics2

**Open-APIとCDP**  
PMS問わずいずれのベンダーもOpen-APIが進み、またCDP用のインタフェース実装が進んでいます。いずれもReal Time APIの形で、実装もインタフェースPCなどは見かけなくなりました。早くPCの呪縛から解放されたいです。

### Topics3

#### サステナビリティ関連ソリューション

いくつか出展されていました。例えば、客室使用水道料が今後Uniform会計指標にも加わってきますので、重要なポイントとなります。どの製品もセンサーとWiFiを駆使して、また安価に構築できることがポイントのようです。ROIは4ヶ月と主張していました。

### Topics4

#### USALI UNIFORM R12

正式なリリーススケジュールが発表されました。ドキュメントの入手は8月以降になりますが、オンライン版は7月末のようです。また発表以降もリリースが入るのでオンライン版を購入し、年間費用で更新版が入手できる方がお得のようです。正式な適用開始は2026/1とのこと。

### <CLOUDIT EYE>

新しいPMSが数多く出展されていました。老舗もあれば新興もあり、群雄割拠の様相を呈しています。しかし相変わらずO社のグローバル功業への強さが目立ちます。またこの動きで注視しておく必要があるのは、そういった功業が立てた、CDPなどを含むITインフラ、データ戦略に深く食い込んでいることです。大規模データプラットフォームへの対応については、一日の長を掴むことになります。各功業のITトップは異業種からの転職、異業種経験ののちの転職ということでももの見方が変わってきています。どこのPMSでもAPIがしっかりしていれば関係ないぐらいのしっかりしたバース思考を持っているのだなということが感じられました。



参加メンバーたちとみんなで今回シャットなんだろうと話をしていました。来年はインディアナポリスで正直言って、あまり面白くない街でした。これはどうも米国内部のMICE誘致政策があるようで、そういった都市の選択になっているとのことでした。市を上げての誘致なので、街の津々浦々にHITECののぼりが立ち、歓迎の様子にあふれていました。



食事はアメリカ南部料理が中心のようでしたが、意外に海産物が多く、驚きました。少し海からは距離があるのにという感じです。しかし、暑かった。おかげで、またビール三昧になりました。

来年は1週間繰り上げて父の日辺りに開催されるとのこと。アメリカ人は父の日を大事にしていますので、それに関する文句も聞かれました。

## <AIのためのクリーンデータ蓄積>

精度の高いAIを作り上げるには、精度の高いクリーンなデータが必要である。しかしAIベンダーはホテルのデータ構造について明確な知見なく、可能性を語る。ここに今、業界のAIに関する潜在的なリスクがあると報告されていた。その理由としては、マルチベンダーによる業務システムが長年続き、各サブシステムとのサイロ(Silos)化が進んでしまっていることにあるようだ。各サイロはそれぞれの業務の必要性に合わせて作られ、入力され、また現場の業務の都合で入力を端折られて、非常に汚いデータになってしまっている。こういった課題に対しては一般企業では10年ほど前からデータの最適化のツールを使ってクリーンにしようという動きで動いてきた。ホテル業界は今やっと気がついたということになる。

これがホテル業界の後進性と言う気はないが、こう言った状況であると言うことに気づき、またベンダーも改善しながらクリーンデータについて考えなければせっかく優秀なAIツールがあろうとも正確性は期待できないことになる。

## <Uniform 12版のポイント>

### 1.環境会計指標

水道利用料、電気使用料、ゴミ処理料がOccupied Roomに対してどのくらいになるのかについて報告義務として加わりました。2026/1からはこれをベンチマークすることも開始だとのこと。

### 2.ロイヤリティコスト指標

各ホテルが支払っているロイヤリティに関わるコスト、ポイントやマーケティング負担、システム使用料などのコストを明確にすることが求められています。そこに追加されるのが、ロイヤリティメンバーに対する特典(部屋のUG、ドリンク券、メンバーラウンジ設定コスト、ランニングコストが含まれてくるそうです。

## <注目の会社>



オーストラリア発で今やグローバル展開をしている、清掃員管理に特化したソフトウェアベンダーです。ルームインジケーションやジョブディスパッチなどの機能はなく、いかに清掃員人件費を抑制できるかということを用いて管理するソフトウェアです。この領域では後発ながら、大手チェーンのCertificateも受けており、またマカオの大規模客室ホテルにも導入されているようです。清掃に特化しているだけあり、画面が使いやすいです。

## <次回予告>

今年も前半の主要イベントは完了しました。コロナ明けで業界自体も活況を呈してきており、来年度以降も楽しみです。今年後半はいくつかの旅行イベントに参加の予定です。

本NEWSはバックナンバー含めて弊社ウェブサイト ([cloudit.jp](https://cloudit.jp)) でも公開しております。

2024年7月5日

CLOUD IT, Inc. 2024

<お問い合わせ>

クラウドイット株式会社 [info@cloudit.jp](mailto:info@cloudit.jp) 電話:03-6416-3270